

# 論語教室だより

『寺子屋・こども論語塾』世話人会  
第 25 号  
2013 (平成25) 年3月16日 (土)

## ひらめき、ときめき、きらめき

寺子屋・こども論語塾 主宰 新田 修

まもなく春休みに入ると思いますが、この期間は一年間の学校(幼稚園)生活を振り返っての反省と新年度に向けての計画を立て準備する機会にしてほしいと思います。

さて、1月の論語塾から里仁第四に入っていますが、仁とか君子といった言葉が多く用いられている篇であることは既にご承知の通りです。塾生のみんなには、是非、思いやりの心を持った立派な人になってほしいと願っています。そういう人になるためにはどうしたらよいかを一緒に考えていきましょう。

ところで、標題の言葉は、教え子の結婚式に同席した某会社の社長さんが挨拶の中で引用されていた言葉です。

「思いつき」という言い回しとは違って「ひらめき」というと鋭い感覚が生まれてくるアイデアなどを連想して、その人の知性を感じます。「ときめき」は期待、心配、喜び、恥じらいなどの強い感情で胸がドキドキすることです。青春特有なものです。塾生のみんなやお父さん、お母さんにもそういう感情は勿論あります。また、いつまでも「きらめいて」いたいと願うのは女性ばかりではありません。男の人だっていつになってもダンディー(かっこいい人)でありたいと思っているものです。

このような人間であるためには、まず、知性を磨かなければなりません。日頃から物事をよく考え、思考訓練を重ねる必要があります。感性豊かであるためには感動体験のできる場を多くもち、そしていつまでもきらめいていたいという強い意志をもたなければなりません。

塾生がやがて迎える青春とは、「人生のある時期を指すのではなく、心のもちかたをいうのだ」と自分に言い聞かせて、魅力ある若者をめざしてほしいと思います。

### ★ 塾生紹介 ★

<p>ほりた みちこ 堀田 美智子さん</p>	<p>&lt;氏 名&gt;</p>	<p>みさわ りゅうこ 見澤 隆子さん</p>
<p>旅行・華道・美術品の鑑賞・ドライブ 主人</p>	<p>&lt;趣 味&gt; &lt;尊敬する人&gt;</p>	<p>書道・茶道 中国の書家で顔 真卿</p>
<p>孫を含め子供達は、論語の意味が今は理解できないと思いますが、孔子先生の教えを少しでも吸収し人の心の痛みがわかり、人の支えになれる人間へと成長してほしいと願っています。 また、会場の提供と坐禅指導を戴いている近藤住職様並びにお手伝い下さっている世話人会の皆様にご心よりお礼申し上げます。</p>	<p>&lt;論語塾に参加して&gt;</p>	<p>年若い身ですのに「論語教室」に入れていただきありがとうございます。論語を学ぶのは初めてでしたので、期待と不安がいっぱいでしたが、新田先生の曇りのない読み上げる声、元気な子供達の姿から、これからの「論語教室」がとても楽しみとなりました。 どうぞ宜しくお願い致します。</p>
<p>堀田さんは35年間、公文教室で幼児から中生迄約70名に週2回、国語・算数・英語を今も教えているそうです。中には障害を持った子供さんがいて大変なところもあるけれども楽しくやっているとのことです。 日常、心掛けていることは、見栄を張らず、人をだますよりもだまされる方がよいと思って生活しているそうです。そのような堀田さんからこそ、厳しさの中にも温かみのある方なのだと私は感じました。</p>	<p>&lt;先生からのコメント&gt;</p>	<p>見澤さんは小学校の先生をされ、退職後の現在は月に2度、刑務所へ女性受刑者の勉強指導に行かれているそうです。いつも自分に言い聞かせていることは、人の良いところを見つけてほめてあげることです。と言われた時には、言葉の重みを強く感じました。物静かな中にも凛とした人柄が見て取れました。 蛇足ですが、見澤さんの尊敬する書家の顔氏は、孔子の最愛の弟子である顔回が先祖だそうです。</p>

※ 4月の塾生紹介は、藤川 響君と村嶋 尋枝さんを紹介します。